

各ワクチンと病気の説明

① 検疫予防接種



■黄熱（Yellow Fever）： 生ワクチン

流行地域	サハラ以南のアフリカ、南米
感染経路・疾病概要	黄熱ウイルスを保有する蚊（主にネッタイシマカ）に吸血されて感染する。発病すると死亡に至る可能性が高い病気。
ワクチン	生ワクチン。 黄熱接種証明書（イエローカード）の提示が必要な国へ渡航の場合は必須。 P.3, 4参照
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 原則、生後9か月より接種可能で、年齢に上限はないが65歳以上は副反応発生リスクが高くなり注意が必要である。 女性の方は接種後2か月間は妊娠を避けるようにして下さい。

② 任意の予防接種

■破傷風（Tetanus）

流行地域	先進国、発展途上国を問わず世界中で流行あり
感染経路	世界中の土壌の至る所に存在する破傷風菌が傷口などから侵入して感染する。発病した場合は予後不良。
ワクチン	<p>日本では1968年（昭和43年）年にDPT（ジフテリア・百日咳・破傷風）の3種混合ワクチンの小児への定期接種が開始となり、Ⅰ期（3回）、Ⅰ期追加（1回）、Ⅱ期（DT 1回）の計5回接種する。</p> <p>小児期の接種が5回完了していれば、20代前半までは抗体が持続する。20歳代前半以降の成人は10年毎に1回接種でよい。</p>
備考	1968年以前に生まれた方などで接種歴のない方は、基礎接種（3回）から開始する。

■A型肝炎（Hepatitis A）

流行地域	途上国では広く存在して感染の機会あり
感染経路	不衛生な水・食べ物（特に魚介類）や食器等を介して経口感染する。A型肝炎ウイルスは85℃以上で1分間の加熱を行うと死滅するので、生食を避け、飲食物は85℃以上で最低1分間は加熱調理すること。
症状	<p>潜伏期間：2-6週（平均28日間）</p> <p>発熱、黄疸、食欲不振、腹痛</p>
ワクチン	ワクチンの効果が高い。重症になると1か月以上の入院が必要になる場合もあり、短期滞在者へも推奨する。赴任前に2回、6か月後に追加接種する。基礎接種の3回接種が完了すれば追加は不要である

備考	1 歳から接種可能。 海外製ワクチンは 2 回接種である。
----	----------------------------------

■B 型肝炎 (Hepatitis B)

流行地域	世界中に分布
感染経路	B 型肝炎ウイルスは感染者の血液や体液中に存在するため、輸血や針刺し事故など血液を介した感染や性行為、母子感染など。
ワクチン	特に医療従事者に推奨。 輸血や医療処置による感染のリスクもあるため、医療事情や交通事情の良くない国へ赴任する場合は推奨される。 赴任前に 2 回、6 か月後に追加接種する。基礎接種の 3 回接種が完了すれば追加は不要である
症状	潜伏期間：3-5 か月 倦怠感、食欲不振、嘔気、嘔吐、腹痛、黄疸
備考	海外製ワクチンも接種方法は日本製と同様。 不特定の相手との性交渉は避ける、信頼できる医療機関を受診する、ピアスやタトゥーをしない、など予防行動も肝要。

■狂犬病 (Rabies)

流行地域	オセアニア、大洋州、カリブー部地域を除く全世界で発生
感染経路	狂犬病ウイルスは、感染哺乳動物（犬、猫、コウモリ、野生動物）の唾液中に含まれている。動物に咬まれる、引っ掻かれる、傷口や粘膜（眼、鼻、唇等）を舐められるなど。 発病すると有効な治療はない。（死亡率 100%）
ワクチン（暴露前）	特に医療機関へのアクセスの悪い地域へ赴任する場合、動物との接触のある業種に推奨。接種に年齢制限はない。 日本製ワクチンは赴任前に 2 回、6 か月後に追加接種。 海外製ワクチンは赴任前に 3 回、1 年後に追加接種。
暴露後の対応	動物に咬まれた場合、すぐに石鹸と流水で傷口をよく洗い、可能であればアルコール等で傷口を消毒する事。 暴露前予防接種を受けていても、発症予防のためにワクチン接種（暴露後）が必要になるため、速やかに医療機関を受診する。
備考	動物への安易な接触をしないなど予防行動が何より重要。 ペットへの予防接種は飼い主の責任。 大洋州への赴任者はコウモリ等の野生動物と接触する危険がある方や動物を扱う職種の方以外は、基本的に派遣前のワクチン接種は推奨しない。

■ポリオ (Poliomyelitis)

流行地域	ポリオ常在国：アフガニスタン、パキスタン ポリオ発生国（2019 年 3 月）：ケニア、コンゴ民、ソマリア、ナイジェリア、ニジェール、PNG （発生国は流動的のため、WHO や検疫所等で情報収集する事）
感染経路	ポリオウィルスは患者の唾液や糞便に排出され、手指や食べ物に付着して経口感染する。

症状	ほとんどの場合（90-95％）が無症状
ワクチン	以前は生ワクチンであったが、2012 年より日本でも不活化ワクチンに変更。小児期に生ワクチン 2 回、または不活化ワクチン 4 回接種していれば、成人は 1 回追加のみ。
備考	1975～1977 年（昭和 50～52 年）生まれの方は抗体価が低いとの報告があるので、1 回追加を推奨。

■日本脳炎（Japanese Encephalitis）

流行地域	中国、東南アジア、南アジアに広く分布。農村地域で夏から秋にかけて流行。 アフリカ、ヨーロッパ、アメリカでは発生無。
感染経路	日本脳炎ウイルスを保有する蚊（コガタアカイエカ）に吸血されて感染する。コガタアカイエカは夜間に吸血する。
症状	潜伏期間：5-15 日間 突然の発熱、頭痛、嘔吐。大多数は感染しても無症状で経過。
ワクチン	小児期に定期接種（4 回）、成人では 1 回追加。
備考	予防策として、ワクチンとともに防蚊対策を徹底すること。

■腸チフス（Typhoid Fever）

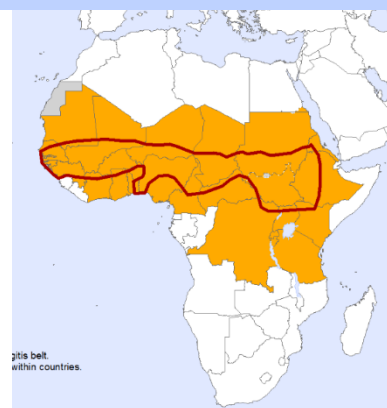
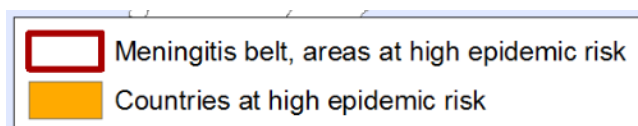
流行地域	特に南アジアで流行。他、東南アジア、アフリカ、カリブ地域、中南米。熱帯や亜熱帯で流行。
感染経路	サルモネラチフス菌による経口感染。病原体は患者や無症候性キャリアの便に含まれ、汚染された飲食物や水により感染する。
症状	潜伏期間：6-30 日間 発熱、頭痛、倦怠感、食欲低下、バラ疹。合併症として消化管出血や穿孔が起きる。診断は、血液培養検査が有用である。
ワクチン	不活化ワクチン（注射）と生ワクチンがあり、いずれも日本では未承認であり、海外製ワクチンを接種することになる。
備考	2 歳から接種可能 ワクチンの予防効果は 70%程度と高くないので不衛生な飲食物を避ける予防行動が肝要である。

■髄膜炎菌性髄膜炎（Meningococcal Meningitis）

流行地域	特に、アフリカ髄膜炎ベルト地域（西～東アフリカ：セネガル～エチオピアにかけての地域）、特に乾季（12～6 月）に流行する
感染経路	飛沫感染。人ごみなどで、くしゃみや咳によりヒトからヒトへ感染する。
症状	潜伏期間 1-14 日間 突然の発熱、頭痛、頸部硬直。敗血症を起こすこともある
ワクチン	日本で 2014 年 7 月に四価髄膜炎菌ワクチンが認可された。海外製ワクチンもある。 ワクチンの種類は、A 群の単体ワクチン、A・C 群が混合された二価ワクチン、A・C・Y・W-135 群が混合された四価ワクチンがあり、多くの血清型に効果がある四価のワクチン

	ンが推奨される。
備考	2 歳から接種可能 メッカへの巡礼時期（ハッジ・ウムラ）ではサウジアラビアでの査証取得時に予防接種が要求される。

Meningococcal meningitis, countries or areas at high risk, 2014



出典：WHO

http://gamapserver.who.int/mapLibrary/Files/Maps/Global_MeningitisRisk_ITHRiskMap.png?ua=1

■ダニ脳炎（Tick Encephalitis）

流行地域	西欧、東欧で温帯で標高 1,400mまでの地域。ダニが活発になる春から秋まで流行しやすい
感染経路	ダニ媒介脳炎ウィルスを保有するまだにに噛まれて感染する。マダニは屋内のダニとは異なり、森林、牧草地に生息している。感染家畜の殺菌処理されていない乳製品を摂取して感染することもある。ヒトからヒトへの直接感染は起こらない。 感染地域によりロシア春夏脳炎、中部ヨーロッパ脳炎に分類。
症状	潜伏期間 4-28 日間（平均 8 日間）、乳製品摂取による感染は 3-4 日間。感染しても 2/3 は無症状である。 第 1 期は頭痛、筋肉痛、疲労感など、数日で軽快する。 2/3 はこれで終わるが、残りは第 2 期で無菌性髄膜炎、脳炎、脊髄炎などの中枢神経症状が出限する。
ワクチン	日本で未承認だが不活化ワクチン（3 回接種）がある。
備考	最も重要なことは、殺菌処理されていない乳製品を摂取しないこと。森林などに立ち入る際は長袖長ズボンを着用しダニ噛傷を避けること。